

### 皇后宮職官人銘記の墨書き土器

(3)とは同一人の筆かも知れない。

(K・K)

下段の写真は、一九八一年度の平城宮跡内の発掘調査(第十二九次調査)で出土した墨書き土器で、正倉院文書及び東南院文書にも表われる皇后宮職の少属川原藏人凡の名前がみえることで注目される(大日本古文書九一一三九、三三〇頁)。出土地点は内裏外郭の東北に接する官衙地区で、同外郭の東を南北に流れる大溝SD二七〇〇である(SD二七〇〇については本誌五九頁参照)。墨書きは前後四回にわたって記されている。

釈文

③「美濃國安八郡」

月廿日少属川原藏

凡

□

少属川原

凡

天平十八年十一月廿日凡藏人凡  
十一月□属川藏

少属川原

凡

①「舍人安曇万呂」

④「□道來道口田木郡」

③「美濃國安八郡壬生郷」

美濃國安八郡 飯四斗米 日二升四合

一

また、安曇万呂も正倉院文書(大日本古文書九一二八七、十一四八一頁)にみえる。一応、釈文に示したように墨書きは四筆にわかれれるが、一応、①が最初に記されたもののようにみえ、また①と

